博物館ニュース

No.95

徳島県立博物館
Museum News

イチョウハクジラ

鳴門海峡近くの千鳥ヶ浜に漂着したイチョウハクジラ、その頭蓋骨（右上写真：左側面）と歯（左下写真：右下顎内側面）

2012年9月5日に鳴門海峡に近い海岸に体長4.7 mのクジラが漂着しているのが発見されました。調べてみたところ、アカボウクジラ科の一種イチョウハクジラであることがわかりました。イチョウハクジラはインド洋から太平洋の熱帯・温帯海域に広く分布しますが、これまで確認事例が少なく、生態などよくわかっていません。鳴門に漂着したイチョウハクジラはオスの成体で、本種の特徴であるイチョウの葉の形をした歯が、下顎に左右一対だけあります（メスには無いか、あっても埋没しています）。

企画展「まんまるワールド—世界と四国の哺乳類—」ではこの個体の全身骨格標本を初公開します。

（動物担当：佐藤 陽一）

藩絵師 矢野典博

― 画名のうつりかわり ―

大橋　俊雄

典博の事跡

矢野栄教典博（？－1799）という名はご存知の方が少ないのではないでしょうか。江戸時代の18世紀後半に、四国の徳島藩で仕事をした狩野派の絵師です。

矢野家が藩に提出した成立書（徳島大学附属図書館蔵）などによると、典博はもともと料理方の藩士の家に生まれ、父常博の影響を受けて絵の道に進んだようです。明和元年（1764）に江戸へ行き、幕府御用をつとめる木挽町狩野家に入門し、栄川院典信のもとで本格的に修業をしました。画名である栄教の「栄」、典博の「典」の字は、どちらも典信から拝領しています。典信が亡くなると、数多い弟子のひとりとして池上本門寺に筆塚を建てています。

藩での典博の画事をみますと、藩主の蜂須賀重喜と、その息女の載、寿代に、絵の手ほどきをしたことが特筆されます。重喜が大谷屋敷という豪華な住まいを国許に建てたときも、絵師としてその建造に関わりました。安永９年（1780）には、元藩主であった蜂須賀宗鎮の遺像を手がけました。

経歴をみるかぎり、典博は藩絵師として華々しく活躍したようです。しかしその割に、今日彼の作品に出会う機会があまりありません。偶然とは思いますが不思議な気もします。あるいは今後増えてゆくのでしょうか。

典博と画名

この典博について、当館で所蔵する森崎家資料から興味深いことがわかります。森崎家資料については、博物館ニュース93号（2013年12月発行）で簡単に紹介しました。地元の絵師たちが持ち伝えていた、江戸期から明治にかけての粉本

図１　竹虎図（左）とその留書（右）

図２　郭子儀図（左）とその留書（中、右）

約 500 点です。作画の参考となる古画の写しや下画類を、一括して保管していたものです。

粉本の中には、典博や、彼の幼名である九郎三郎の署名が記されたものがあり、ほかに南李、貞英という、いままで知られていない矢野姓の署名がみられます。

典博、九郎三郎、南李、貞英のそれぞれの筆跡を比べると、どれもよく似ています。年記のあるものは、南李が宝暦 13 年（1763）、九郎三郎が明和２年、貞英が同２年と３年、典博が同５年以後となり、九郎三郎と貞英の時期が重なります。

改めて成立書を読むと、典博は幼名を九郎三郎といい、明和４年（1767）７月に栄橋典博を名のり、安永４年（1775）12 月に「橋」の字を「教」に改め栄教としたとあります。南李、貞英の名はみあたりません。

成立書と粉本のデータをつきあわせると、どうやら南李、貞英は、栄橋典博を名のる前の九郎三郎の画名（または画号）ではないかと推測されます。すなわち、典博の名が以下のように変化したと考えられます。

九郎三郎	幼名（明和２年までは確認される）
南李	父常博に師事したころ
貞英	明和２・３年ごろ
栄橋典博	明和４年から
栄教典博	安永４年から

最後に実例をあげます。竹虎図（図１）は、画中に「宝暦十三未年十月朔日写之　矢野主」とあり、紙背に「竹虎　南李主」と記されています。「主」とは持ち主のことで、ここでは矢野南李の所持を示しています。くわしくはふれませんが、いつ写したのかていねいに書きつけること、「写之」あるいは「主」などの筆づかいに、後年の典博との共通性が感じられます。典博の父常博は南竹と号しましたので、南李は一字をもらったのでしょうか。

つぎの郭子儀図（図２）は、画中に「矢野九良三郎主」および「明和二乙酉年七月五日写之」と楷書で記されていて、典博が写して持っていたことが明らかです。仙人図（図３）には、「明和二乙酉年孟春写之　貞英主」「六幅之内二幅写」とあり、筆跡が図２でみた九郎三郎のものときわめて似ています。典博と貞英が同一人物であるとみなされる、有力な手がかりのひとつです。　（美術工芸担当）

図３　仙人図（左）とその留書（右）

平成26年度　第2回企画展

まんまるワールド

The Mammals of the World and the Shikoku Island

― 世界と四国の哺乳類 ―

剣山系のツキノワグマ
（四国自然史科学研究センター提供）

哺乳類は白亜紀末に恐竜が滅んだ後に台頭してきた脊椎動物の一大グループです。陸上のみならず水域や空中へと様々な環境に適応し、活躍の場を広げました。現在、世界中で約 5,500 種が知られています。

この企画展ではライオンやトラ、ホッキョクグマなどの世界の哺乳類と共に、タヌキやキツネ、シカやツキノワグマなど身近な四国の哺乳類の分布や生活史など、最新の研究成果も紹介します。そして 2012 年 9 月に鳴門海峡近くに漂着した希少種イチョウハクジラの全身骨格標本も初公開します。

※剥製標本はいずれも
きしわだ自然資料館蔵

会期　7月19日(土)～8月31日(日)

会場　博物館 1階企画展示室

休館日　毎週月曜日
ただし、7月21日(月)は開館、7月22日(火)は休館

主催　徳島県立博物館
認定 NPO 法人 四国自然史科学研究センター

観覧料
一般 200 円（65 歳以上は 100 円）、高校・大学生 100 円、小・中学生 50 円
※土・日・祝・夏休み期間中は、小・中学生及び高校生は無料
※学校教育による利用は無料　※20 名以上の団体は 2 割引
※障がい者とその介助者 1 名は無料

企画展関連行事

●シンポジウム「四国の哺乳類」 ※参加無料・申込不要

日 時　8 月 3 日（日）　13：30～15：30
場 所　文化の森イベントホール
演 題　ハタネズミのいない四国の哺乳類
　　金子 之史（香川大学名誉教授）
　　狸脂とお稲荷さん－四国狐狸雑談－
　　谷地森 秀二（四国自然史科学研究センター所長）
　　四国のツキノワグマ－絶滅から救えるか－
　　山田　孝樹（四国自然史科学研究センター研究員）
　　獣害はどうして起こる
　　金城 芳典（四国自然史科学研究センター研究員）

●展示解説（企画展示室） ※観覧料必要

7 月 20 日（日）　14：00～14：30
8 月 24 日（日）　14：00～14：30

阿波藍商人が建てた熊本・本妙寺の常夜燈

熊本市の本妙寺には、阿波藍商人が建てた常夜燈があります。本妙寺は、日蓮宗の寺院で、豊臣秀吉（1536－1598）に仕えた加藤清正（1562－1611）を祀ることで知られています。もとは、天正13年（1585）に父清忠を追福するため清正によって大坂で創建され、清正没後に現在の地に移されました。寺内には、清正を祀る浄池廟があり、藍商人が奉納した常夜燈は、浄池廟拝殿の前に建てられています。

常夜燈を観察すると、建立年は嘉永3年（1850）11月、藍玉を取り扱う「大榮講」というグループが「海陸安全」のため奉納したとあります。その他に、藍玉を熊本に運んだとみられる船「金栄丸」、「発起世話人　宮島屋惣兵衛」、藍商人らの名前などが刻まれています。

阿波藍商人が、遠く離れた肥後国（現熊本県）の寺院に常夜燈を奉納したのは、阿波と肥後の間で藍の取り引きが行われていたためです。建立の具体的な経緯はわかりませんが、商人の信仰は一般的に篤く、神仏への信心と商業経営は一体化したものとして捉えられていたようです。また、江戸時代中期以降の肥後国では、熊本近郊農村において肥後絣の生産が盛んになります。それに伴い、阿波藍の需要が高まり、阿波と肥後との交流の結果、常夜燈が建立されたものと考えられます。　（歴史担当：松永友和）

1　熊本・本妙寺の浄池廟拝殿
左右に阿波藍商人が奉納した常夜燈が建つ（2013年12月撮影）

2　阿波藍商人が建てた常夜燈（部分）
「永代常夜燈　阿州藍玉　大榮講」と刻まれている

ウミタケとその化石

ウミタケは、今年の春の企画展「いただきま～す！　食の生活史と自然誌」で福岡県柳川市周辺の特徴的な海産物のひとつとして取り上げました。今回は、この貝の生物としての側面や、化石からわかることなどを紹介します。

ウミタケ（図１）は、殻に入らないほど長い水管を持ち、干潟や水深 20m までの泥質な砂底に 30 ～ 50cm ほどの深さにもぐって生活しています。海底面にいったん体が洗い出されると、再びもぐることはできず死んでしまいます。殻はごく薄く、よく膨らみ、前後が大きく開いています。多数生息しているのは、柳川市沖など有明海北部だけですが、分布域は広く、日本では北海道南部以南～九州の海域で記録されており、筆者も徳島市の小松海岸で貝殻を拾ったことがあります。

図１　鮮魚店店頭のウミタケ（福岡県柳川市の鮮魚店）

ウミタケの化石は、新第三紀鮮新世後期～第四紀の千葉県以南の浅海の地層から産出します。県内では徳島平野や那賀川平野の地下の地層（海成沖積層、数千年前）から化石が得られています（図２）。

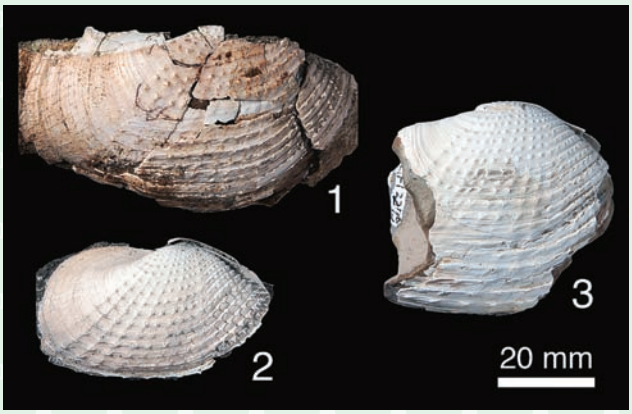

図２　各地のウミタケ化石
1：北有馬層（長崎県南島原市、約 80 万年前）
2：渥美層群豊橋層（愛知県田原市、約 30 万年前）
3：那賀川平野の海成沖積層（阿南市桑野川地下、約 6000 年前）

ウミタケの化石の多くは、生息時の姿勢を保った状態で地層の中から見つかります（図３）。このような化石の状態から、当時もいまのウミタケと同じように深くもぐって生活していたことや、そのおかげで海底に洗い出されることがあまり多くなかったことがわかります。

（地学担当：中尾賢一）

図３　斜め上からみた地層中のウミタケ化石（豊橋層）

昨年発表された那賀町で見つかったアンモナイトは、学術的にどのような点が、すごいのですか？

昨年、新聞やテレビなどで、那賀町（旧・木頭村）で発見されたアンモナイトが大きく取り上げられました。しかし、この発見の学術的な意義について十分に伝わっていない点もあるかと思いますので、改めて説明します。

那賀町には、三畳紀と呼ばれる時代の地層が散在的に分布しており、二枚貝化石の産出が古くから知られています。しかし、示準化石（※）として有効なアンモナイトの産出は、非常に稀で、アンモナイトの種類が特定できたものは、1964 年に報告された 1 種のみでした。

しかし、2007 年に那賀町の三畳紀の地層から化石愛好家によってアンモナイトが発見され（図 1）、当館に寄贈されました。その後、当館や国立科学博物館などが共同で研究を進めた結果、シレニテス・センティコサス（*Sirenites senticosus*）という種類だと判明しました（図 2）。この種類は、これまでヨーロッパ・アルプス地方と中国南部の三畳紀後期（約 2 億 3400 万年前）の地層だけから産出しており、那賀町のアンモナイトを含む地層も約 2 億 3400 万年前にできたものだと分かりました。

約 2 億 3400 万年前当時、地球上にはすべての大陸が集まってできたパンゲア大陸が存在し、その大陸に取り囲まれるように、テチス海が広がっていました（図 3）。テチス海は、赤道周辺に位置することから温暖な海だと考えられています。シレニテス・センティコサスは、主にテチス海に生息しており、その東端の先にある日本近くまで分布を広げていたことが分かります。一方、那賀町のシレニテス・センティコサスと同じ地層から産出する二枚貝化石の種類は、北方のシベリア地域で産出するものと似ています。そのことから考えると、当時の日本周辺は、南方系と北方系の両方の生物グループが入り混じる地域だったのかもしれません。　　（地学担当：辻野泰之）

※ 示準化石：地層のできた時代を決定することができる化石

図 1　那賀町の化石産地の様子

図 2　那賀町で発見された約 2 億 3400 万年前の
アンモナイト：シレニテス・センティコサス

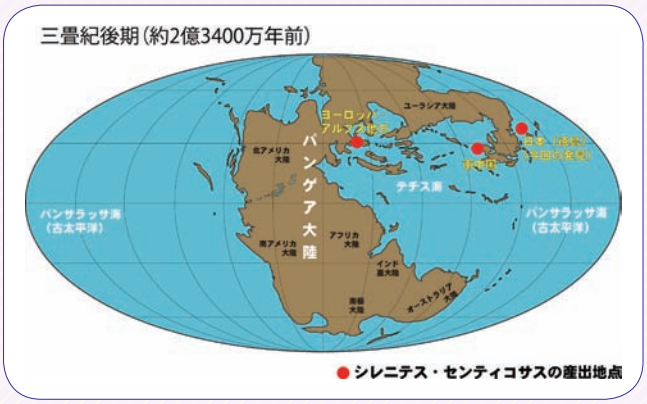

図 3　三畳紀後期（約 2 億 3400 万年前）の古地理図

７月から９月までの博物館普及行事　あなたも参加してみませんか？

シリーズ名	行事名	実施日	実施時間	申込	対象（定員）	備考
歴史散歩	由岐歴史散歩	9月28日(日)	10:00～12:00	要	小学生から一般（20）	現地集合
野外生きものかんさつ	川魚かんさつ	7月26日(土)	10:00～12:00	要	小学生から一般（40）	現地集合
	漂着物を探そう！	7月27日(日)	9:00～17:00	要	小学生から一般（30）	貸切バス
	トラップで虫採り！①（②とセット）	8月 9日(土)	13:30～16:30	要	小学生から一般（20）	
	トラップで虫採り！②（①とセット）	8月10日(日)	13:30～15:30	要	小学生から一般（20）	
	河口の生きもの	9月 7日(日)	9:30～11:30	要	小学生から一般（60）	現地集合
	ウミホタルを観察しよう	9月20日(土)	17:00～19:00	要	小学生から一般（20）	現地集合
ミクロの世界	電子顕微鏡で植物を見よう！②	9月21日(日)	14:30～16:00	要	小学生から一般（20）	
みどりの工作隊	藍の葉っぱで遊んでみよう	7月21日(月)	13:00～15:00	不要	小学生から一般(200)	祝日無料
	草や木を使った環境にやさしい紙作り	8月17日(日)	10:00～15:00	要	小学生から一般（30）	
たのしい地学体験教室	貝化石標本をつくろう	7月20日(日)	13:30～16:00	要	小学４年生以上（25）	
ワクワクむかし体験	勾玉をつくろう	9月14日(日)	13:30～15:30	要	小学生から一般（20）	材料費100円(大学生･一般)
海部自然･文化セミナー ※海陽町立博物館共催	県南の古代文化と長国	7月27日(日)	13:30～15:00	不要	小学生から一般（50）	海南文化館
	銅鐸のはなし	8月31日(日)	13:30～15:00	不要	小学生から一般（50）	海南文化館
企画展関連行事	企画展「まんまるワールド」展示解説	7月20日(日)	14:00～14:30	不要	小学生から一般	観覧料必要
	「まんまるワールド」シンポジウム－四国の哺乳類－	8月 3日(日)	13:00～15:30	不要	中学生以上　（150）	
	日本の古第三紀哺乳類の化石	8月10日(日)	14:00～15:30	不要	小学生から一般（50）	
	企画展「まんまるワールド」展示解説	8月24日(日)	14:00～14:30	不要	小学生から一般	観覧料必要
部門展示関連行事	部門展示「100均☆自然史グッズ」展示解説	8月10日(日)	14:00～14:30	不要	小学生から一般	観覧料必要
博物館スペシャル	教員のための博物館の日	7月30日(水)	10:00～16:00	要	＊お申し込み･お問い合わせは、徳島県立総合教育センターへ（088-672-6419）	
	夜の博物館ドキドキ体験ツアー	8月 9日(土)	18:30～19:30 19:30～20:30	要	小学生から一般(各30)	
	標本の名前を調べる会	8月23日(土)	10:00～16:00	不要	小学生から一般	★参照
	文化の森サマーフェスティバル	8月24日(日)	9:30～16:00	不要	小学生から一般	

◎小学生が参加する場合は、保護者同伴です。
◎企画展の展示解説は企画展観覧料が、部門展示の展示解説は常設展観覧料がそれぞれ必要です（高校生以下は無料）。

★「標本の名前を調べる会」は、植物・動物（昆虫・貝など）・岩石・化石などの標本の名前を調べる会です。
希望者は採集標本（1 人 30 点以内）を持って、直接博物館までおこしください。定員はありません。

普及行事のお申し込みについて

◎１枚の往復はがきで､1 行事のみ申し込むことができます。
◎行事日の **１カ月前から 10 日前**までに必着で右記までお申し込みください。
◎返信用はがきの住所･氏名も忘れずに記入してください。
◎希望者が多数の場合は抽選とし、詳細は当選された方にお知らせします。
◎原則として、参加費は無料です。

往復はがきの記入例

〈往信の表面〉	〈返信の裏面〉	〈返信の表面〉	〈往信の裏面〉
52 〒770-8070 往信 徳島市八万町 向寺山 徳島県立博物館	何も書かないでください	52 〒□□□-□□□□ 返信 あなたの 郵便番号 住所 氏名	1. 参加希望の行事名 2. 参加希望者全員名(学年) 3. 住所 4. 電話番号

※お問い合わせは、徳島県立博物館へ（電話 088－668-3636）

博物館友の会に入会しませんか！

博物館友の会は、さまざまな活動を通じて自然や文化に親しむとともに、会員相互の交流をはかっています。
2014 年度も楽しい行事が予定されています。
みなさんも参加してみませんか？

■年会費　・個人会員 2000 円　・家族会員 3000 円

■会員の特典
- 年間を通して博物館の常設展、企画展の観覧料が無料になります。
- 友の会の楽しい行事に参加できます。
- 友の会の出版物やミュージアムショップの品物を割引価格で買うことができます。
- 催し物案内、博物館ニュース、会報等が送付されます。

◆ 2014 年度 行事予定

（友の会会員だけの行事です。）

6月 7日(土)	伊島を歩こう（阿南市伊島）
6月22日(日)	草や木の実でジャム作り（博物館実習室）
7月26日(土)～27日(日)	キャンプで自然体験（佐那河内村）
9月(日未定)	板野周辺を歩こう（板野町の文化財巡り）
10月18日(土)	秋の山を歩こう（佐那河内村旭ヶ丸）
11月 8日(土)	化石を探そう（高知県安田町唐浜）
11月15日(土)	京都日帰り研修（京都市）
12月14日(日)	リースを作ろう（博物館実習室）
1月～3月(日未定)	こんにゃく作り（博物館実習室）
2月(日未定)	大敷網(おおしきあみ)体験（海陽町鞆浦(ともうら)漁協）

くわしくは友の会事務局まで（電話 088-668-3636）

博物館ニュース No.95
■発行年月日　2014 年 6 月 25 日
■編集・発行　徳島県立博物館　〒770-8070　徳島市八万町向寺山
http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp　TEL088-668-3636　FAX088-668-7197